

新庄の人気者「どべ」

新川神社春祭りの人気者、どべ。昔から新庄の子供たちはどべをほやし立てて怒らせて、逃げ回ることを楽しみにしていました。どべも子供を見るとなきなたを振りかざしながら驚かそうと近寄っていきます。子供が怖がつて逃げても追いかけて来ますが、最後には頭を撫でてくれます。昔から小さな子供がどべに頭をなでられると「病気になる、頭が良くなる」といわれ、春祭りにはお母さんたちは我が子を撫でて貰いたくて、どべが来るのを心待ちにしています。どべは大人から子供までみんなの人気者です。



「鼻が長く、背が高く、口のはしが明るく光っていて目は鏡のように光り輝いて赤ほおずきに似ている。上は高天原を、下は葦原中国を明々と照らし、その光が鋭くどの神様も恐ろしくて近寄れませんでした。」
これを元にして新庄の昔の人が考えられたのが今のどべの面と装束です。

「どべ」は交通整理のおまわりさん

「どべ」のお仕事は神様の道先案内人と、悪い神、邪鬼からおまもりすることです。春祭りは新川神社の神様が年に一度、新庄町の家庭訪問をされる日です。みんな元気に暮らしているかな、まじめに生きているかな？と様子を見に来られます。その神様の行かれる道を案内しながら、もしも神様の行く手をじやまするものがあればそれを祓いよけるのがどべの仕事です。怖い顔をしていますますが本当は優しい心をもった、正義の神様なのです。



「どべ」は「猿田彦神」という神様です。

さて、では「どべ」とは何者でしょうか？実は古事記や日本書紀という日本の神話に登場する猿田彦神(さるたひこのかみ)という神様です。猿田彦神は天照大御神の孫である「にぎの命」という神様がこの日本の国に天界から降りてこられるときに、道案内をした国津神(元々日本の土地にお住まいになっていた神様)です。

神話には猿田彦神の事をとても恐ろしく怪しい姿であったことが以下のように書かれています。



「どべ」の語源
なぜ「猿田彦神(さるたひこのかみ)」が「どべ」と言うようになったのかはわからないのですが、ある説には「どめん(土面)」が、いつのまにか短くなつて「どべ」になったのではないかとされています。今のどべの面は木の彫り物で土面ではありませんが、昔は土面だったのかもしれない。



新川神社

奉祈 天壤無窮 五穀豊穰 天下泰平

平成二十八年 新庄鎮座四百年記念大祭斎行

新川神社 宮司 船木信光
〒九三〇一〇九九一
富山県富山市新庄町二丁目十三番四十七号
電話・ファックス〇七六一四四二一八二八六

